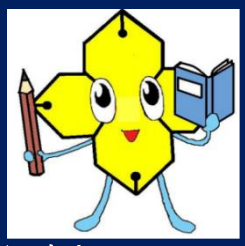

令和７年度

愛宕中学校

～生徒一人一人が主人公～

GIGAスクール推進構想

学びのDXを実現するために

ICTを活用した目指す生徒の姿

新しい社会に対応するため，「情報活用能力」といった，ICTを主体的に使いこなすとともに，他者と協働し，人間ならではの感性や創造性を発揮しつつ新しい価値を創造する力をもつ生徒。

到達指標

■ C型（活用初期型）→B型（相乗効果波及効果型）→A型（資質能力検証型）を意識した取組を実践する。

■ 令和５年度全国学力・学習状況調査における生徒質問紙の調査項目

⑴ 「１，２年生のとき受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使用しましたか。」の質問に対して「ほぼ毎日」と回答した本校生徒の割合は，84.6%（全国：28.1%)+56.5%であった。令和６年度は，85%を目指す。

⑵ 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」の質問に対して「役に立つと思う」と回答した本校生徒の割合は，76.9%（全国：58.7%)+18.2%であった。令和６年度は，80%を目指す。

行動指針・推進基盤の５要素

⑴ 組織的な推進体制の確立

① ICT推進部　（校長・教頭・主幹教諭 各学年情報担当1名ずつ）
② 教科主任会→教科会

⑵ 日常的な持ち帰りの定着

① 課題持ち帰り型学習の推進
② Qubena（AI型デジタルドリル）の活用
③ 各教科からの宿題の充実
④ DIARY(日誌）のデジタル化への研究

⑶ 実践の情報共有

① 教科主任会→教科会での情報共有
② 学年主任会→学年会での情報共有
③ 運営委員会での情報共有

⑷ 校務DXの推進

① Groupware（掲示版）の活用
② ペーパーレスの推進

⑸ チャレンジできる学校文化

① 自発的・自律的な活動
② 提案型の活動

ＩＣＴ活用の４場面と具体的な取組

４場面		具体的な取組	評価測定
日常的な活用 (日常のDX)	■	健康チェックの実施	きもちメーターの活用
	■	帯タイムでの活用	Qubenaの活用，タイピング練習
	■	デジタルドリルの活用	Qubenaの活用
授業での活用 (授業のDX)	■	一斉学習	電子黒板・デジタル教科書・資料提示
	■	個別学習	個に応じた学習・調べ学習・思考を深める学習・表現・制作
	■	協働学習	発表・話合い・協働での意見整理・協働制作
特別活動等での活用 (波及効果)	■	委員会・生徒会	広報や情報の配信　会議での活用
	■	学校行事	音楽発表会　体育祭の配信　プレゼン
	■	部活動	練習計画　諸連絡　実技撮影
	■	地域との特色ある活動	防災教育
家庭等での活用 (相乗効果)	■	課題持ち帰り型学習	
	■	Qubenaの活用	
	■	各教科からの課題	
	■	休校等における活用	
	■	持ち帰りによる調べ学習・レポート作成等主体的な学び 宿題提出においてロイロノートを活用	